

1. 目的

サイエンスコミュニケーションネットワーク横串会（以下、横串会）は、サイエンス・コミュニケーション関心者（研究者、実践者、学習者、興味者など、サイエンス・コミュニケーションに“関心”を寄せる全ての者を称する）が立場や活動の枠を超えて横断的な交流や情報交換、互学、協働を自主的にできる場や機会を創出する「器」としてサイエンス・コミュニケーションを促進する。

2. 背景

「サイエンス・コミュニケーション」というキーワードのもと、科学者や科学ジャーナリスト、科学館関係者、研究機関の広報担当者、NPO、科学技術と社会のかかわりを研究する者、科学と社会の橋渡し人材の養成組織、学校教員、エンジニア、主婦、学生など、様々な立場の人が科学技術に関するコミュニケーションに関心をもち、あるいは携わっている。その関心や活動の軸も様々であり、コミュニケーター養成講座やサイエンスカフェ、研究者のアウトリーチ活動など、多岐に渡るサイエンス・コミュニケーションの取り組みが行われている。この背景には平成18年度から開始された第3期科学技術基本計画があり、「知の活用や社会還元を担う人材養成」が政策として本格的に推進され始めたことが、科学技術と社会の関わりにおいて作用する人材の養成や科学と社会をつなぐ活動の活発化を後押ししている。しかし、地域や分野、組織などそれぞれの枠の文脈に基づいた個別の活動が多く、全国各地の関心者が、それぞれの文脈をまたいでフラットに交流できる機会は少ないのが現状である。近年では科学と社会をつなぐことをコンセプトに、「サイエンスアゴラ」という全ての人に開かれた科学のイベントが平成18年から行われている。しかし、地方でボランティアとして活動している人や、副業的に関わっている人にとってはイベントに参加すること自体が難しい場合もある。このような地理的な隔たりや制約、活動内容・分野を越えて、サイエンス・コミュニケーション関心者同士が日常的に交流や情報交換、協働的な取組みを見出せるような場が必要とされている。そうした場をつくり、参加者主体の交流が活発になれば、共有できるノウハウや情報・ネットワークを互いに活用することが容易になり、さらなるサイエンス・コミュニケーションの促進が期待される。

また、横断的な交流が促進されるためには、産・官・学、活動内容・分野・所属組織などのあらゆる立場・パラダイムの文脈上にいるサイエンス・コミュニケーション関心者が気軽に交流できる場を創出する第3者的な組織による取組みが不可欠である。

3. 活動内容

サイエンス・コミュニケーション関心者の横断的な交流を活発にする取組みを行うことを主目的とする。その一環として、横串会会員が日常的に情報交換や互習、交流を行う場として、地域や分野・活動内容を越えて集いフラットに交流できるバーチャル・コミュニティの運営を行う。これにより日常的なコミュニケーションを促し、サイエンス・コミュニケーション関心者の活動を活性化させる。また、サイエンス・イベント等で横串会の目的に沿った出展や、横串会会員間の交流を促進するためのイベント、地域間の活動をつなぐイベント等を企画実行する。その他に横串会の目的に照らして必要な活動を行う。